

世界考古学会議第8回京都大会（WAC-8）における壁画古墳セッションについて

文化庁文化財部古墳壁画室

世界考古学会議第8回京都大会において、文化庁としてセッション「壁画古墳の挑戦：保存と活用」を立ち上げ、実施したので報告する。

○世界考古学会議第8回京都大会（WAC-8）

期間 平成28年8月28日～9月2日

会場 同志社大学他

主催 世界考古学会議第8回京都大会実行委員会

共催 日本学術会議、京都市

運営 世界考古学会議、特定非営利活動法人 WAC Japan

後援・協力 文化庁、京都府、小豆島町、京都府教育委員会、独立行政法人国立文化財機構、京都商工会議所、京都市国際交流協会、京都文化交流コンベンションビューロー、日本考古学協会、考古学研究会、日本人類学会、日本文化財科学会、文化財保存修復学会、日本西アジア考古学会、東南アジア考古学会、日本中国考古学会、特定非営利活動法人南アジア文化遺産センター、文化遺産国際協力コンソーシアム、日本博物館協会、ICOM 日本委員会、日本イコモス国内委員会、同志社大学

○セッション「壁画古墳の挑戦：保存と活用」

第1セッション（8月30日 9:00～11:00）

・趣旨説明

建石徹（文化庁）

James Scott Lyons（カリフォルニア大学バークレイ校／米国）

・これがアート？ 日本の考古資料の博物館展示における検討

Melissa Rinne（京都国立博物館）

・古墳壁画と日本の文化財保護法

栗原祐司（東京国立博物館）

- ・日本と台湾における文化財保護法と博物館法
Sung-Shan Wang（逢甲大学／台湾）
- ・クイーンズランド地域におけるペトログリフの比較と保存
Jacinta Warland（オーストラリア考古学協会／オーストラリア）、
Kenneth Isaacson（オーストラリア考古学協会／オーストラリア）
- ・議論（１）

第２セッション（８月３０日 １４：２０～１６：２０）

- ・壁画古墳の保存と活用—日本からの議論—
高妻洋成（奈良文化財研究所）
- ・福島県清戸迫横穴の事例—原発事故エリアにおける遺跡の保存活用—
吉野高光（福島県双葉町教育委員会）
- ・宮城県合戦原遺跡の事例—東日本大震災に伴い発見された線刻壁画の移設と活用—
山田隆博（宮城県山元町教育委員会）、城門義廣（福岡県教育委員会）
- ・平成２８年（２０１６年）熊本地震における装飾古墳の被災状況（速報）
村崎孝宏（熊本県教育庁）、長谷部善一（熊本県教育庁）
- ・遺跡報道の現状と課題—壁画古墳の事例を中心として—
関口和哉（読売新聞大阪本社）
- ・議論（２）

セッションオーガナイザー

建石徹（文化庁）

James Scott Lyons（カリフォルニア大学バークレイ校／米国）